



子ども食堂の現状 & 困りごとアンケート

vol.7

結果報告

回答期間 : 2022年10月26日(水)~2022年11月9日(水)

回答対象 : 各地の「子ども食堂の地域ネットワーク」および
「子ども食堂ネットワーク」とつながる子ども食堂

回答数 : 47都道府県 681件

実施 : 認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ

第1部

こども食堂の現状&困りごとアンケート vol.7

- ・ こども食堂開始年
- ・ こども食堂の運営母体
- ・ アンケート回答時点のこども食堂の開催状況、開催していない理由
- ・ 一堂に会してのこども食堂の再開時期、コロナ禍における変化
- ・ 活動に関する困りごと

第2部

物価上昇によるこども食堂への影響

- ・ 物価上昇による変化
- ・ 支援の状況
- ・ 物価上昇による困りごと（自由記述）

第3部

活動に関する困りごと(自由記述)

過去の「こども食堂の現状&困りごとアンケート」調査結果は、以下にまとめています。

第1回 2020年4月13日～17日実施

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2020/04/musubie_Q_sheet_0423.pdf

第2回 2020年6月19日～25日実施

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2020/07/musubie_Q2_sheet_0713.pdf

第3回 2020年9月20日～28日実施

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2020/10/musubie_Q3_sheet_1020_02.pdf

第4回 2021年2月1日～10日実施

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2021/03/musubie_Q4_sheet_fix0312.pdf

第5回 2021年6月23日～7月4日実施

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2021/07/musubie_Q5_sheet_0716.pdf

第6回 2022年6月2日～16日実施

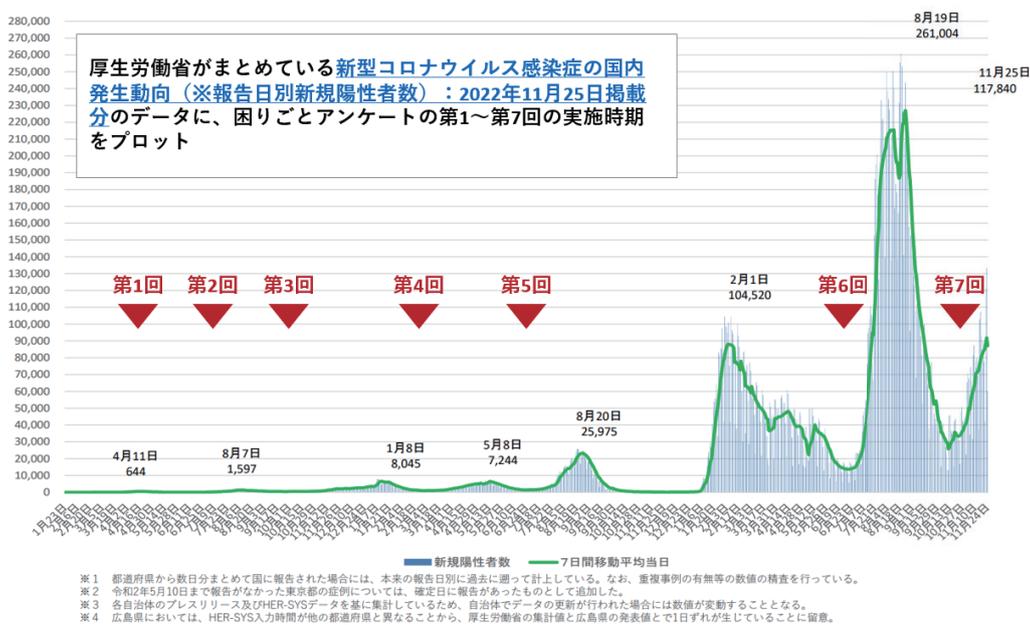
https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2022/07/musubie_Q6_sheet_0701.pdf

※過去に実施した全国こども食堂実態調査とは調査方法及び回答数が異なっているため、比較分析の対象外としております。

第1回全国こども食堂実態調査 2021年10月15日から12月15日

<https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2022/03/a7043c68eccf433117d7c6238c32ac0e.pdf>

【感染者数推移とアンケート実施時期】



むすびえ理事長・湯浅よりアンケート結果総括

コロナ禍が始まって丸3年。なかなか明けないコロナ禍の中、これで最後になってほしいと思いながらアンケートを繰り返し、ついに第7回となってしまいました。今回も、全国のこども食堂のみなさんのお声と、そこから垣間見えるいつもの奮闘ぶりをお伝えしたいと思います。

前回アンケートが第7波の直前、今回アンケートが第8波の直前と、期せずして感染拡大期の谷間の実施となった影響もあるでしょうが、会食形式でのこども食堂の再開状況は、前回同様48.8%となりました。

また、物価上昇の影響については、1食あたり66.7円、1回開催あたり3,000円の負担増（いずれも中央値）となっていることが初めて明らかとなりました。それに対して、食数や品数など何らかの変更を行っているこども食堂は6.9%に止まっています。こども食堂は資金が潤沢にある活動ではありませんから、つまり、物価上昇に悲鳴を上げながらもその影響を参加者に転嫁せず、なんとかやりくりして踏みとどまっているということです。そのことがもっとも端的に伝わってくるのが次のコメントでした。「こういう時だからこそこども達の楽しみを減らしたくないとの思いから、質や量を落とすことのないよう歯を食いしばって頑張っている」。

そして、歯を食いしばって頑張っているこども食堂のみなさんを、多くの方たちが支援してくれています。約3割のこども食堂が行政から、約4割が民間から、物価上昇に関連した支援を受け取っていました。

コロナも物価高も大変です。が、大変なときだからこそ発揮される人々の底力があります。私たちむすびえは、そのみなさんの底力に感謝しつつ、そこに甘え切ることなく、自分たちでできることを最大限やっていきたいと思っています。そしてそこに、一人でも多くの人たちが一緒に危機を乗り越える仲間として参加してくれることを願っています。



むすびえ理事長
湯浅 誠

第 1 部

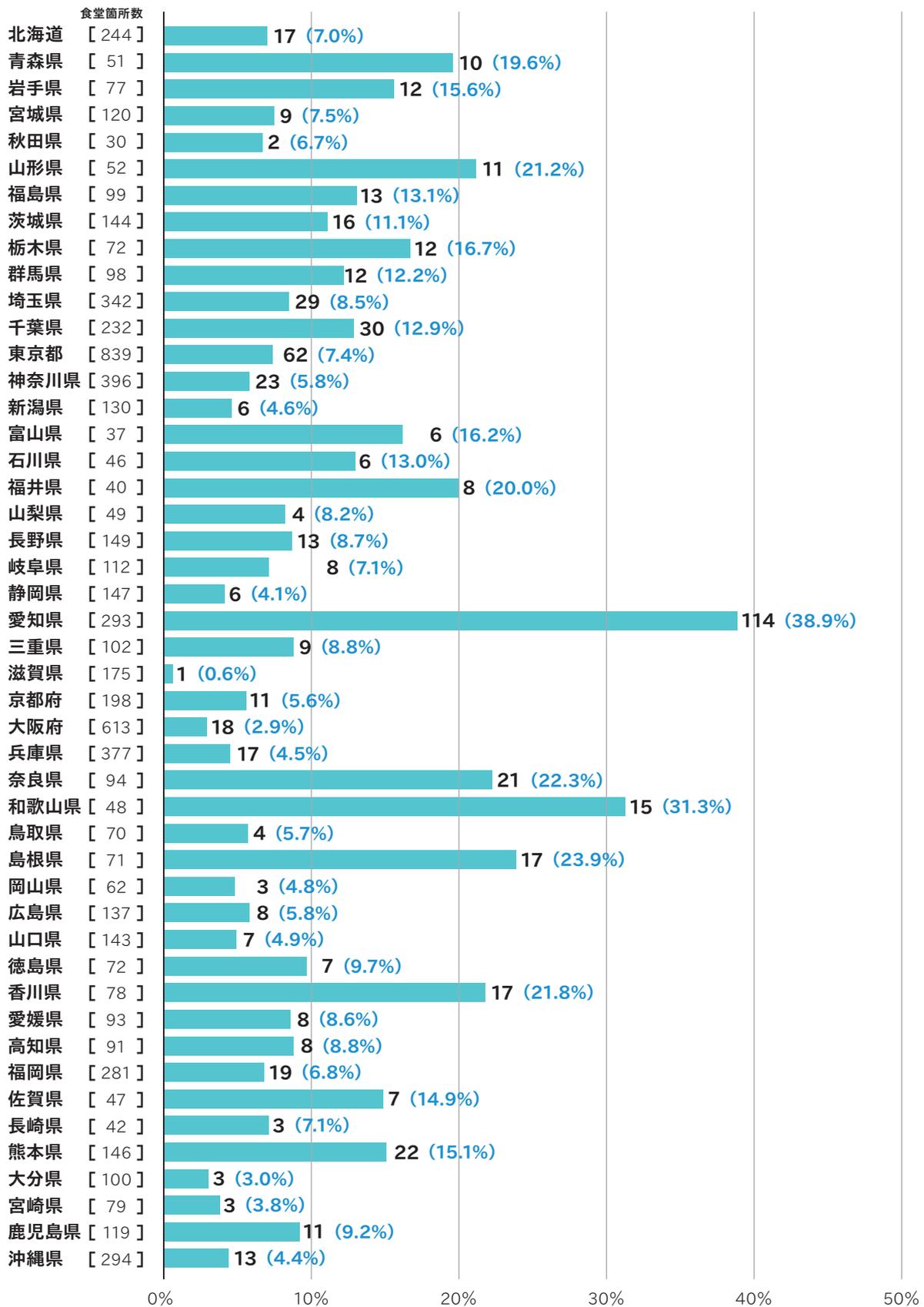
.....

こども食堂の現状 &
困りごとアンケート

vol.7

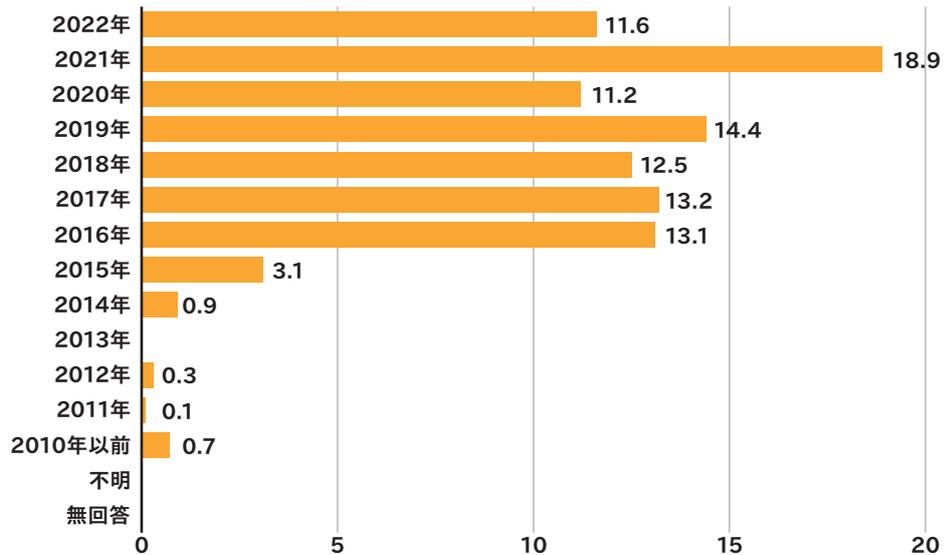
都道府県別の回答した子ども食堂の数及び回答率

単位：件 回答数=623



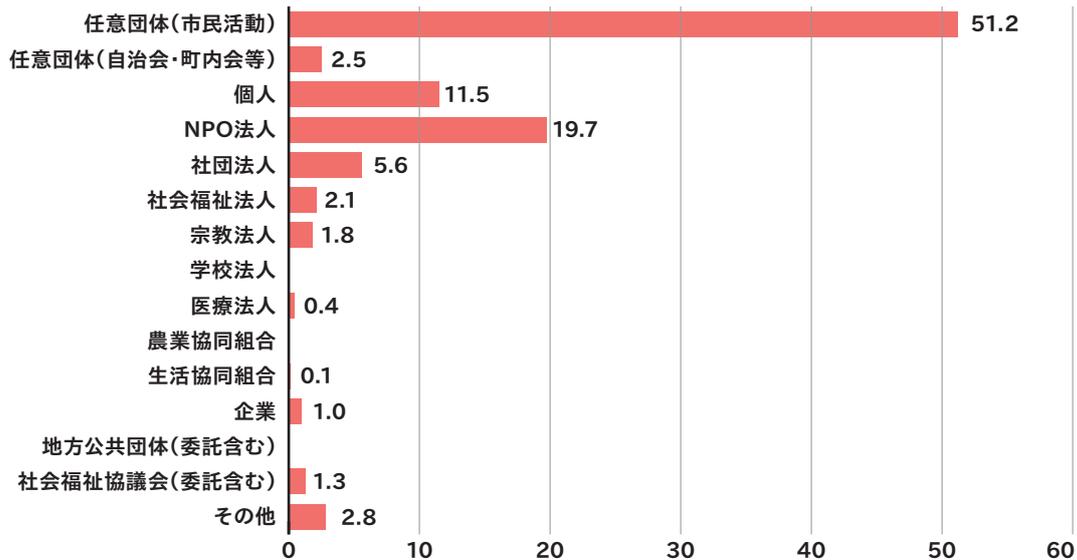
1 開始した年について

回答数：681件 単位：%



2 運営主体について

回答数：681件 単位：%



その他：公益財団法人、一般財団法人、小学校区の各種団体の代表が構成する任意団体、プロテスタント教会内の任意団体、運営委員会など

アンケートからわかること

・今回の回答者においては、過去4年2022-2019年に開始した団体が56.1%と全体の半数以上となっている。

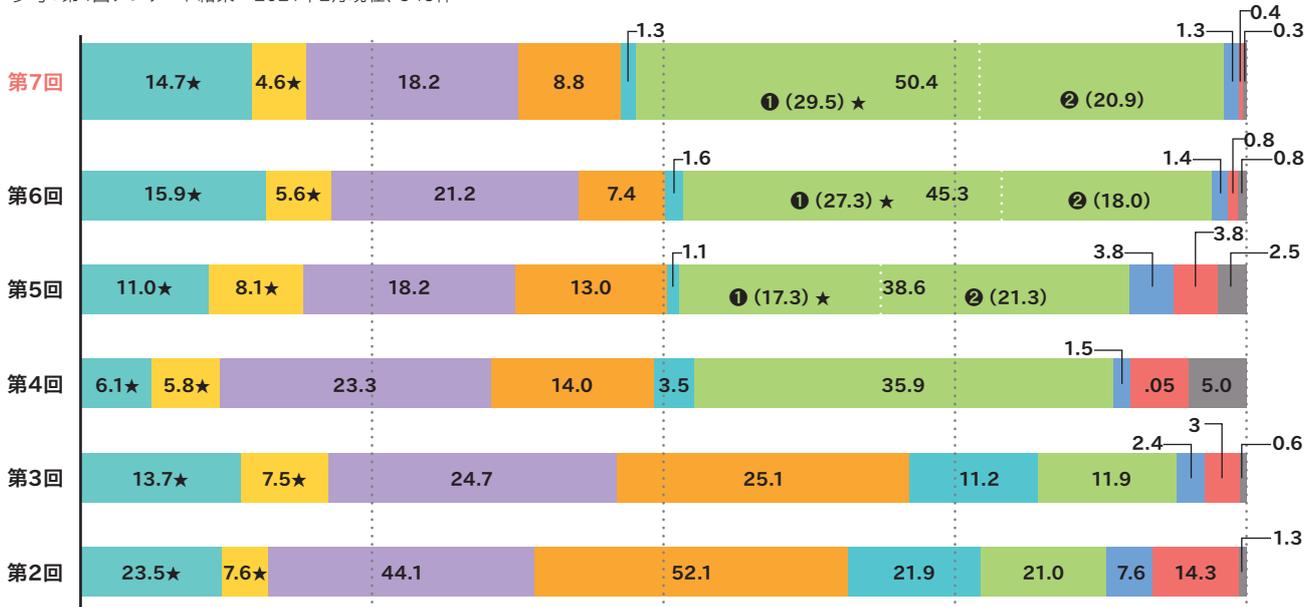
・運営団体については任意団体(市民活動)が51.2%と最も多く、次いでNPO法人の19.7%、個人11.5%と上位3項目で82.4%と8割を超える水準となった。

3 開催状況

回答数：681件 単位：%

参考：第2回アンケート結果 2020年6月現在、460件 ※複数回答あり
 参考：第3回アンケート結果 2020年9月現在、708件 ※複数回答あり
 参考：第4回アンケート結果 2021年2月現在、343件

参考：第5回アンケート結果 2021年6-7月現在、446件
 参考：第6回アンケート結果 2022年6月現在、62



- 会食形式のこども食堂 (これまで通りみんなで一緒に食べる)
- 会食形式のこども食堂 (これまでと異なり人数制限、屋外開催などをする)
- お弁当の配布 (取りに来てもらう)
- 食材等の配布 (取りに来てもらう=パントリー)
- 食材やお弁当等を宅配 (自宅へお届け)
- 複数活動 (①こども食堂+食材配布、②お弁当配布+食材配布など)
- その他の活動を実施
- 活動の休止・延期 (再開予定時期あり)
- 活動の休止・延期 (再開予定はたっていない)
- ★: 会食形式のこども食堂を実施

アンケートからわかること

・活動を休止・延期しているのは0.7%のみ (前回は1.6%) で99.3%が何等かの活動を実施している。

・会食形式のこども食堂を開催している割合が48.8% (★印の項目: 会食形式のこども食堂 (これまで通りみんなで一緒に食べる) 14.7%、会食形式のこども食堂 (これまでと異なり人数制限、屋外開催などをする) 4.6%、複数活動 (会食形式のこども食堂を含む) 29.5%の合計)。前回もこども食堂を開催している割合が48.8%と同値であったが、会食形式のこども食堂のみを開催が減少し、複数活動をしているが2.2ポイント増加する結果となった。

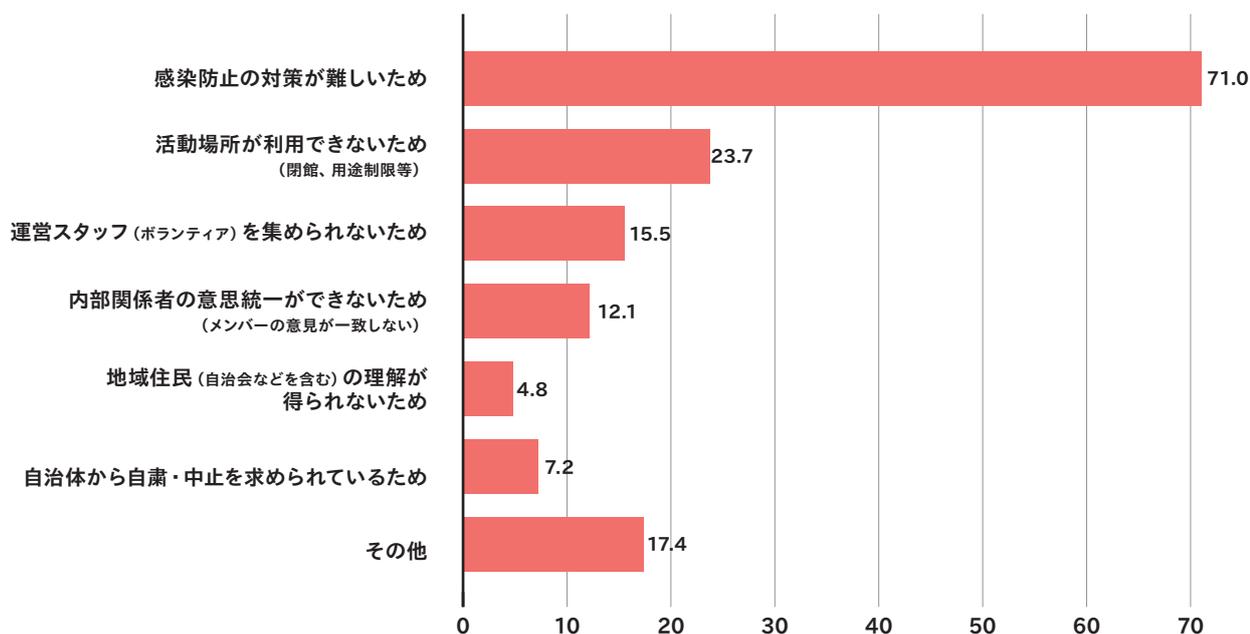
・一方、弁当・食材配布など、いわゆるフードパントリー活動をしているこども食堂の割合が49.2%と前回の48.2%から微増する結果となった。

(注記)

・第5回アンケート以降、これまで「複数活動 (こども食堂+食材配布、お弁当配布+食材配布) とひとまとめに聞いていた質問項目を「複数活動 (こども食堂あり)」と「複数活 (こども食堂なし)」に層別して聴取している。
 ・なお、「複数活動 (こども食堂あり)」の内訳については、①月2回実施のうち、1回を一堂に会する形での居場所型で開催、1回を弁当・食材配布形式で開催というように定例化しているものと、②地域の感染状況に応じて開催形態をその都度柔軟に変更しているもの (開催予定日近くに地域で陽性者が出たら弁当配布に切り替えるなど) がある。

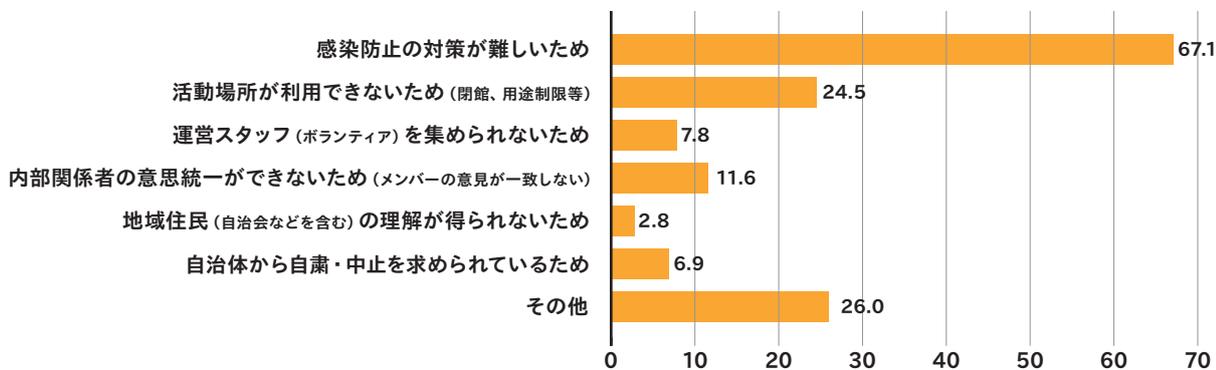
3 -1 会食形式の子ども食堂の非開催理由 (※複数回答)

回答数:207件 単位:%

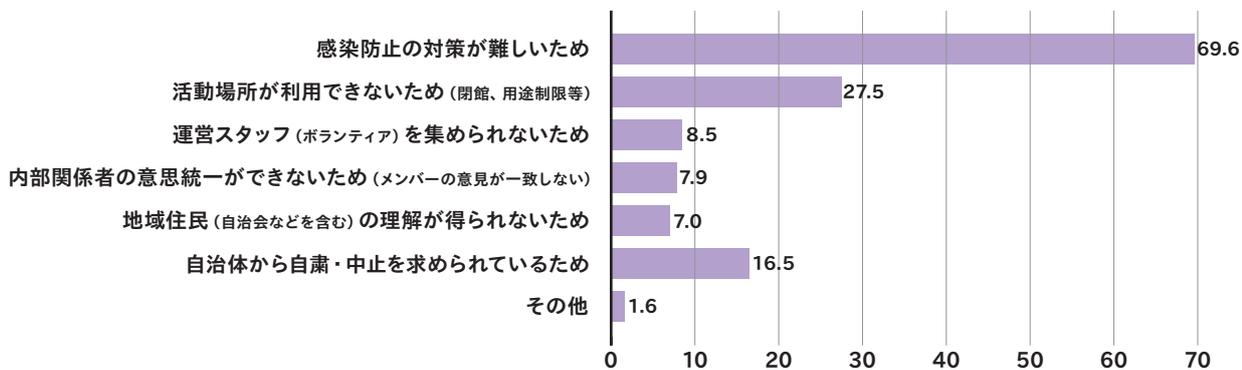


・その他:会食形式に戻すのはまだ早いという雰囲気、子どもたちに黙食させたくない、まだ近隣小学校で感染者がでているため など

■第6回アンケート結果 2022年6月現在 319件

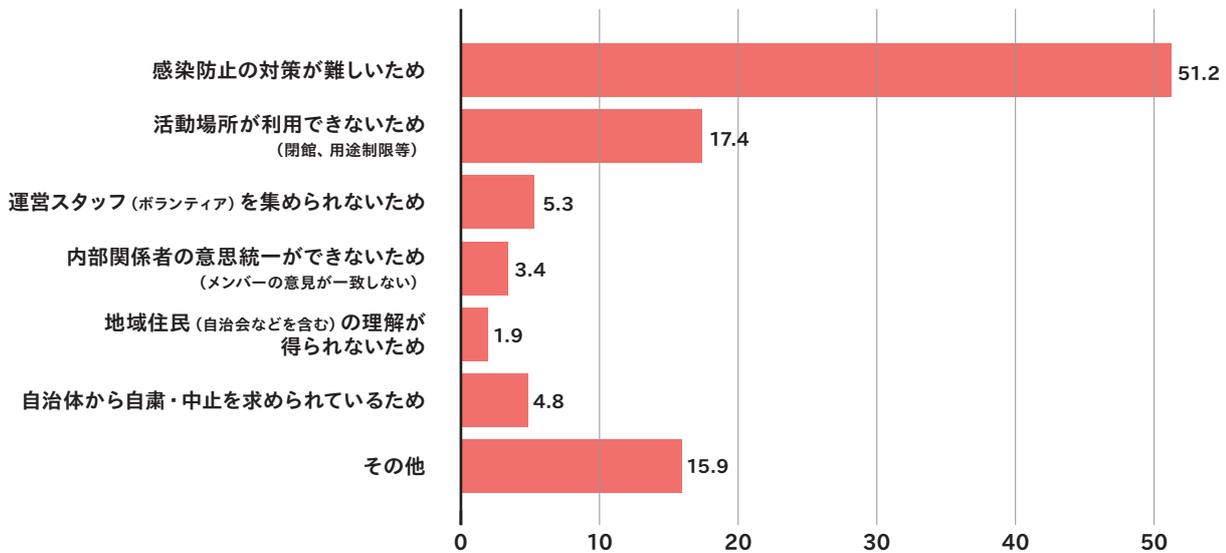


■第5回アンケート結果 2021年6-7月現在 316件

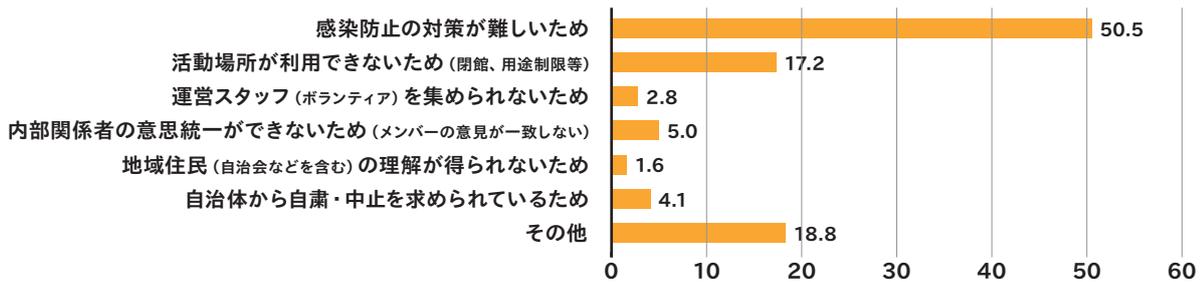


3 -2 こども食堂の非開催理由（最も）

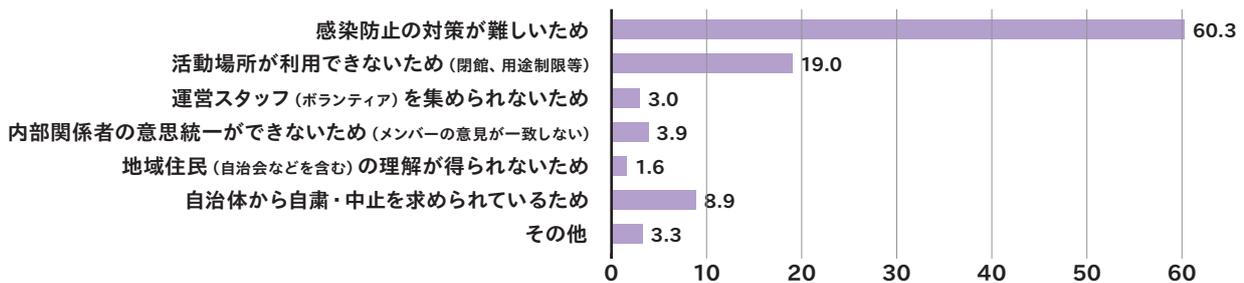
回答数：207件 単位：%



■第6回アンケート結果 2022年6月現在 319件



■第5回アンケート結果 2021年6-7月現在 316件



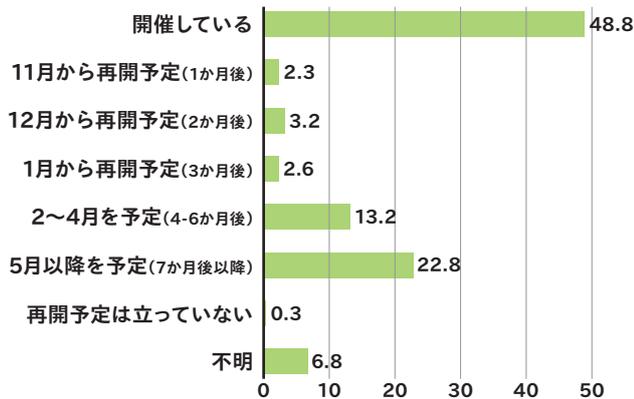
アンケートからわかること

- ・こども食堂の非開催理由の回答として感染防止の対応が難しいことを理由にする人が71.0%と前回の67.1%から微増となった。
- ・一番の理由として、感染防止対策が難しいという回答は、51.2%と前回の50.5%と同水準であった。

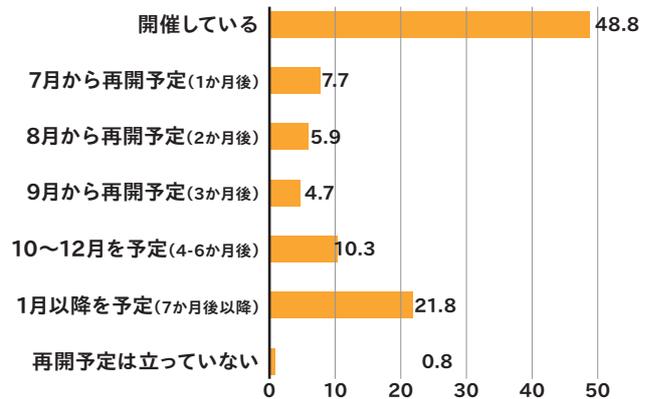
4 会食形式のこども食堂の再開時期

回答数：681件 単位：%

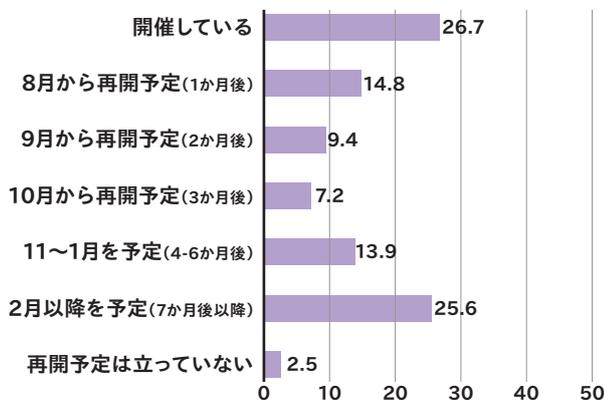
■第7回アンケート結果 2022年11月現在 681件



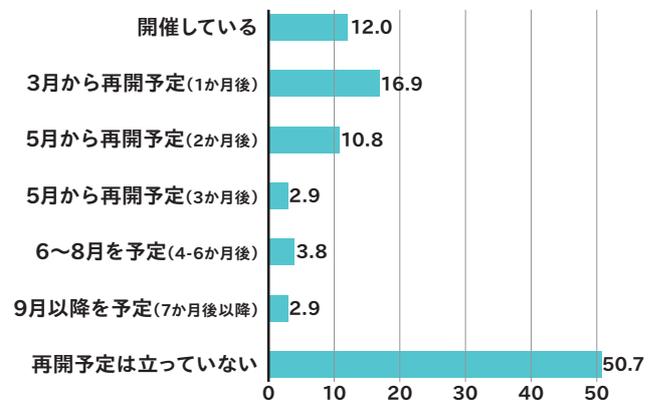
■第6回アンケート結果 2022年6月現在 623件



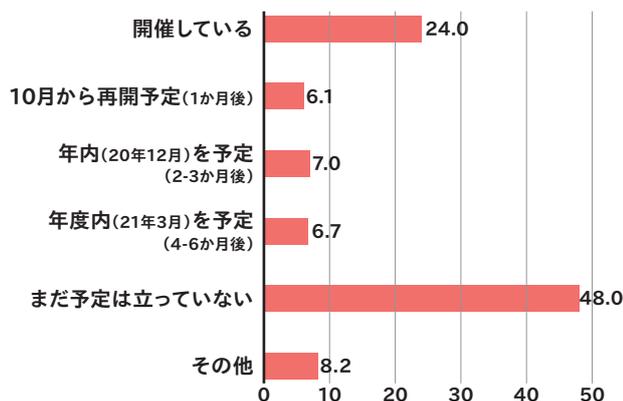
■第5回アンケート結果 2021年6-7月現在 446件



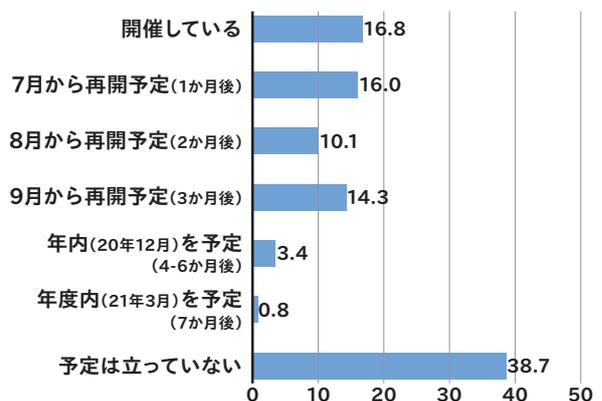
■第4回アンケート結果 2021年2月現在 343件



■第3回アンケート結果 2020年9月現在 342件



■第2回アンケート結果 2020年6月現在 238件

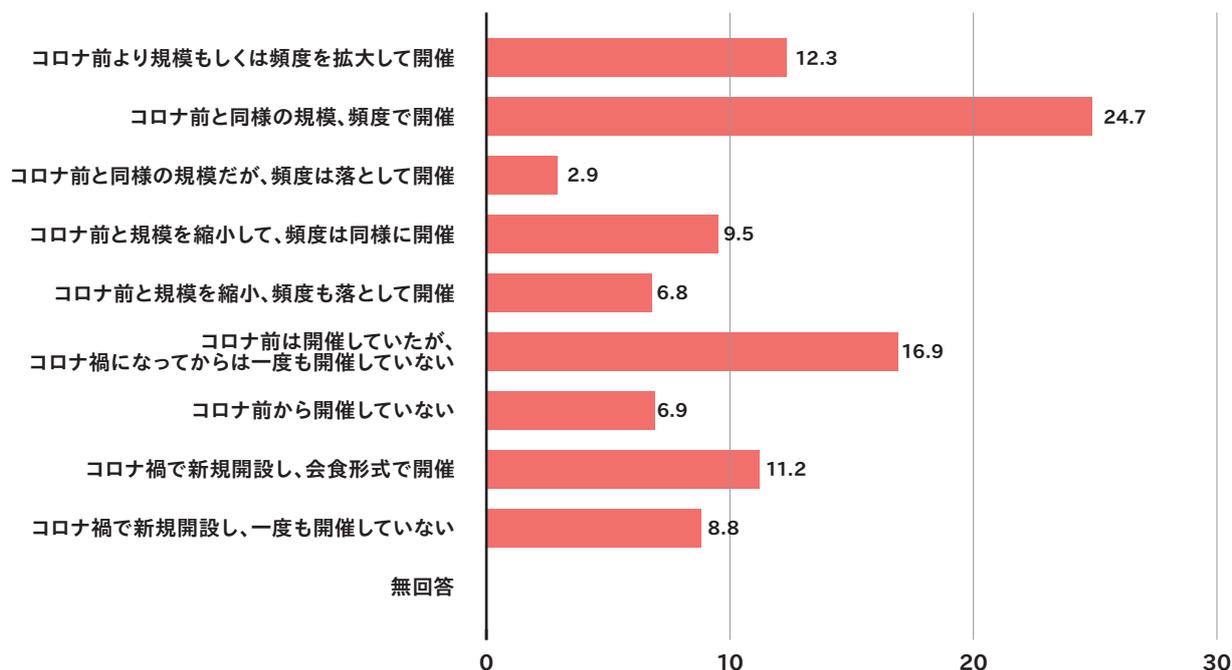


アンケートからわかること

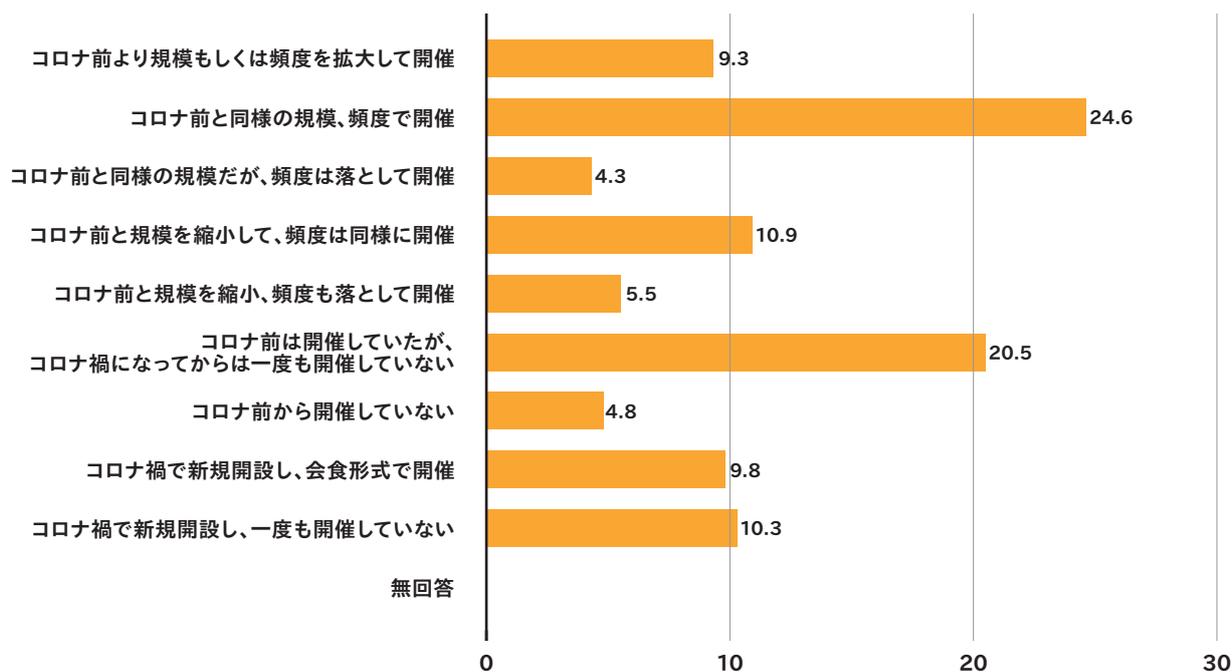
・現在開催、1,2か月後に開催を予定している人たちを合わせると、53.8%と前回の62.4%から8.6ポイント減少しており、ワクチンの3回接種やコロナ禍での生活への慣れなどの影響があるものの、繰り返されるコロナの波にすぐに再開予定をたてるのが難しい様子が見えてくる。

4 -1 コロナ前後での会食形式の こども食堂の開催状況

回答数：681件 単位：%

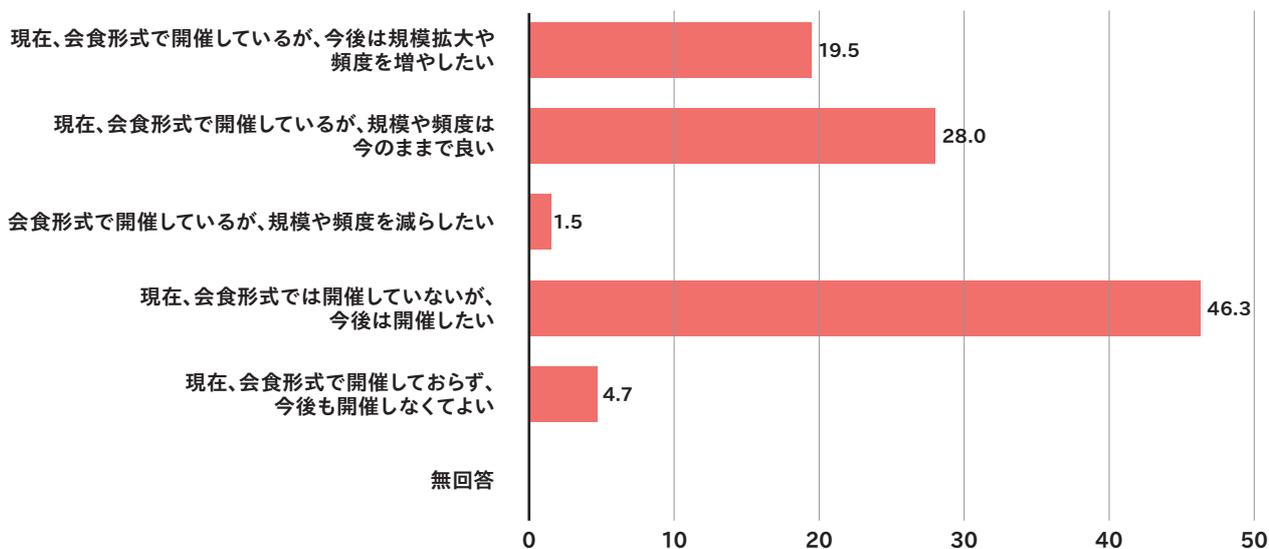


■第6回アンケート結果 2022年6月現在 623件

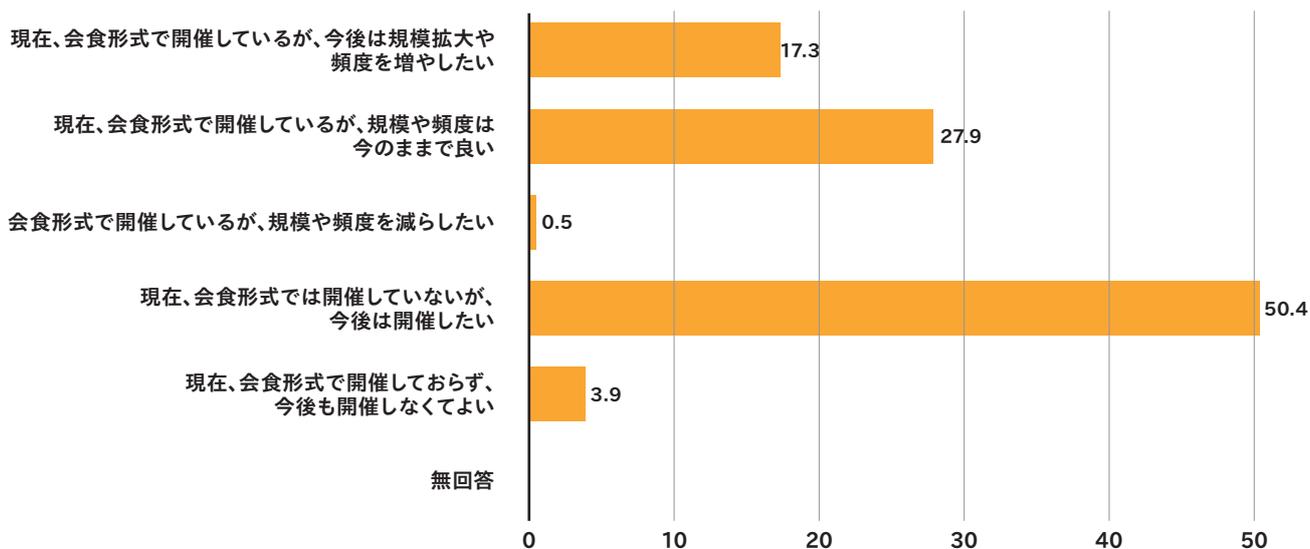


4 -2 今後、感染状況がさらに落ち着いた場合の 会食形式の実施意向

回答数：681件 単位：%



■第6回アンケート結果 2022年6月現在 623件



アンケートからわかること

・コロナ後も同等の規模・頻度で実施していることも食堂が24.7%で最多となり前回の24.6%と同水準となった。一方で、コロナになって以降一度も会食形式を開催していないとの回答が16.9%と前回の20.5%よりは下回るものの次点であり、規模や頻度何らかの縮小をして実施が19.2%（前回は20.7%）とコロナが開催状況に影響を与えている。

・今後、感染状況がさらに落ち着いた場合では会食の実施意向は95.3%（前回は96.1%）とほとんどで、同規模以上の継続実施が47.5%（前回は45.2%）、現在、会食形式では開催していないが、今後は開催したいが46.3%となった。

4 -3 実施意向の回答理由(自由記述)

現在、会食形式で開催しているが、今後は規模拡大や頻度を増やしたい

- 子ども達が、ここめっちゃ楽しいと話してくれるので、居場所作りは継続して続けていきたいと思っています。(愛知県)
- 子ども達に食育という視点からも、食堂に参加して行ってほしいと思いますし、やはり対面での、大勢での食事の機会、場面、体験の提供を行っていく必要性をととも感じているため。(熊本県)
- コロナ禍で希薄になった人との関りを、子ども食堂で地域住民が会食しながら交流をして絆を深める必要性を感じるから。(大分県)
- 定員を減らしているなので、元に戻したい。(東京都) など

現在、会食形式で開催しているが、規模や頻度は今のままでよい

- スタートから6年経ち、当日のボランティアは増えていますが、継続的に運営に関わる人が減っているため、中心メンバーの負担が増えています。また私を含め中心メンバーの高齢化も不安要因の一つです。(東京都)
- スタッフの体力的に今の開催規模が精一杯なので、現状維持でいきたい(熊本県)
- 感染状況だけでなく、会場の広さやスタッフの数を考えた場合、現状維持が適切です。(埼玉県)
- 今のままで良いとは思いませんが、公民館利用のため、コロナとは関係なく入れる人数に制限があり、今以上に増やすことは困難かと思います。(千葉県)
- 地域に周知されるようになりつつあり、参加者が増えている。今の状況を超えるとボランティアスタッフの負担が大きくなり、楽しみながら活動ができなくなる為。(岐阜県) など

現在、会食形式で開催しているが、規模や頻度を減らしたい

- 以前より参加者が増えているため、一人ひとりに寄り添えるよう頻度はそのまま規模を縮小したい。(愛知県)
- 感染拡大と縮小を繰り返しており、活動量の差にスタッフが疲弊してしまう。(愛媛県) など

4 -3 実施意向の回答理由(自由記述)

現在、会食形式では開催していないが、今後は開催したい

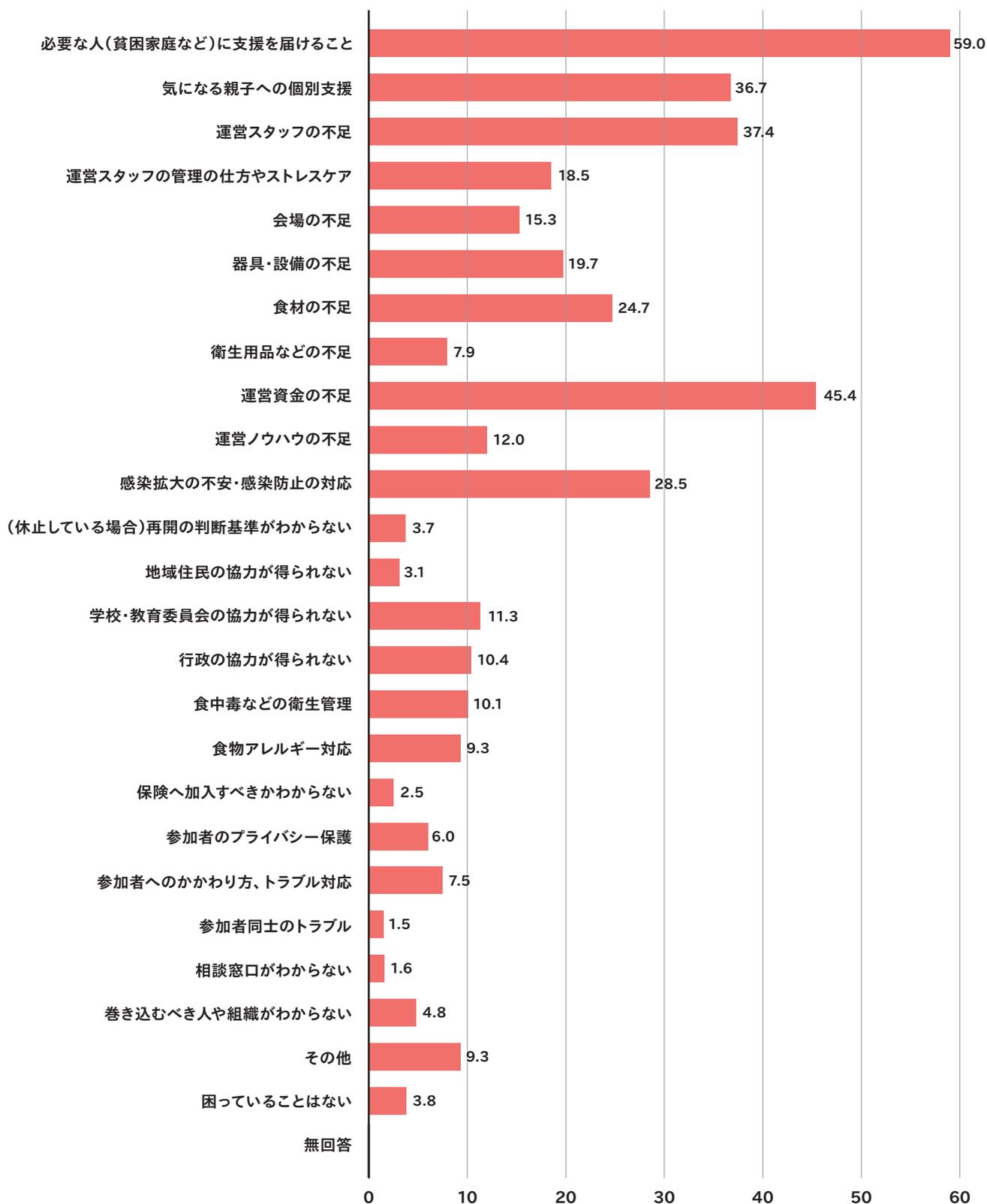
- おなじ、時間を共有することが大切だからです (埼玉県)
- お弁当を取りに来る子や、食材を取りに来る子供や母親とゆっくり話す雰囲気にならない。また、子どもだけで居場所に来れるようになることも、目的の一つなので、会食式を来年度は実施していきたい。(熊本県)
- ごはんを孤食の時間にして欲しくない みんなで食べる楽しさや 食の楽しみを共有したい (北海道)
- 会食では中高生の出席率が下がるため、弁当には弁当の良さがある。とはいえ、会食することで利用者コミュニティが出来上がっていくので復活させたい。また、ボランティアの満足度が違う。(東京都)
- 会食の場を通じて、親子や多世代の交流をするなかで、支え合いの地域づくりをしたいと考えてきたから。(山梨県)
- 会食形式は、一堂にして参加者との交流ができること。近況など聞いたり、気になってる人の様子にも寄り添えると思っています。みんなでワイワイ食を共にすることで、地域の居場所にもなって居たり、参加者同士のコミュニティ形成にもなるとしています。又経費面では、楽になるようです。(宮城県)
- 今は、会食以外のイベントなどで、参加者の交流の機会を持つようにしている。会場で一緒に食べることで、より参加者の事を知ることが出来るのではないかと。 (大阪府)
- 子どもたちからの会食の要望の声が少しずつ増えてきたからです。(愛知県)
- 子どもたちが楽しみにしている。やっぱりみんなで食べるのがいい! (東京都)
- 子供たちの中に、お弁当でもいいので、ここで食べたいという意見が有ります。外にシート広げてでも食べたいという意見ですので、検討していきたいと思います。(熊本県) など

現在、会食形式では開催しておらず、今後も開催しなくてよい

- 会食形式だと、後片付けが必要になり、それを担うスタッフが確保できないと思うから。時間も長くなるため、負担が大きい。(埼玉県)
- 現在、平日の夕食を用意しているが、田舎であり、子どもだけで食べにくることは難しい。また、小さい子どもがいる利用者さんからは、家に持って帰って食べれる方が喜ばれる。設立当初から弁当配布としており、会食形式のための調理ボランティアの確保が難しい。(島根県)
- 配布するようになって人数が多く、一緒に食べるようにするにはスタッフが対応しきれない。(千葉県)
- 老人介護施設のため食堂形式は困難(青森県) など

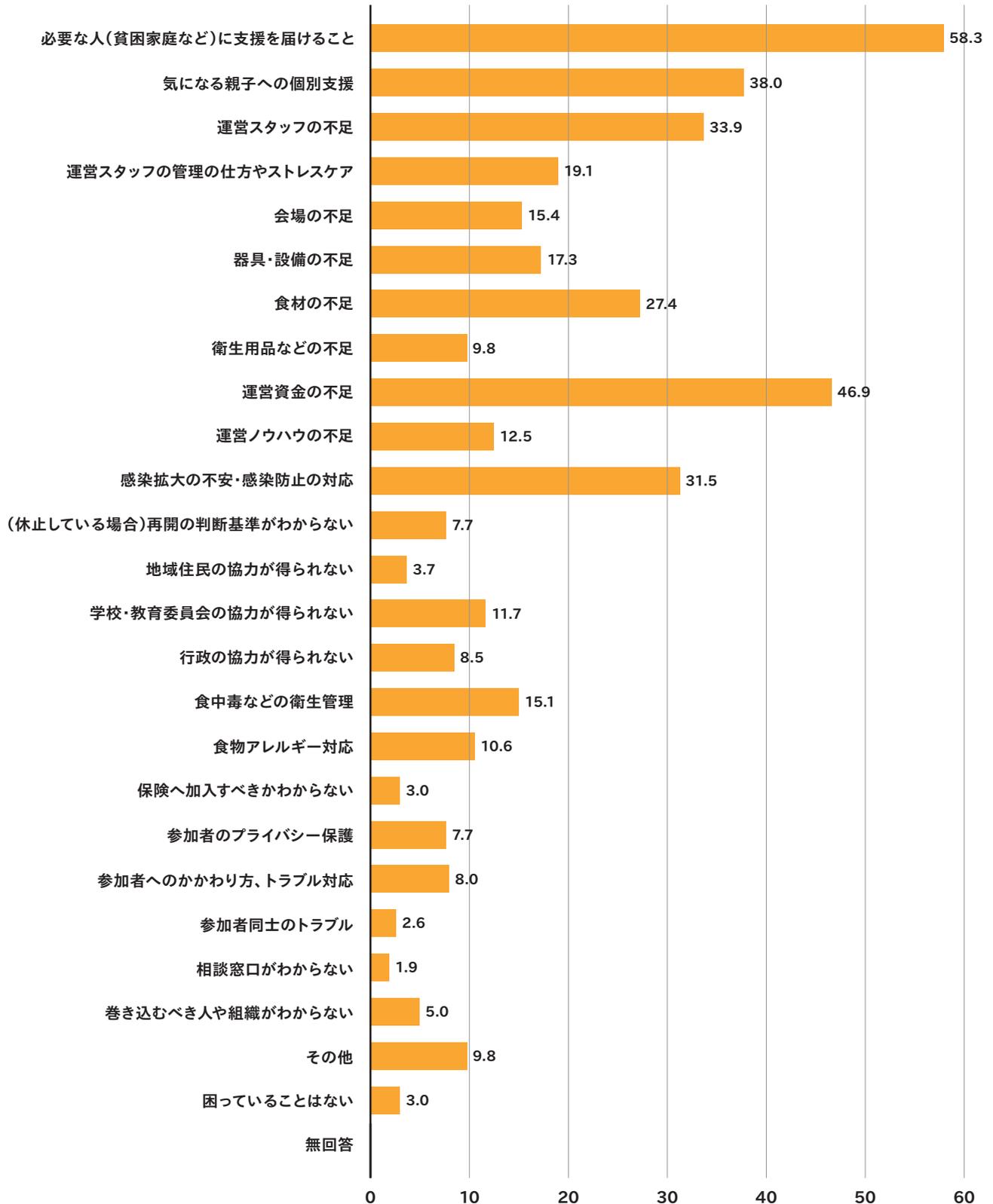
5 -1 こども食堂での困りごと(※複数回答)

回答数:681件 単位:%

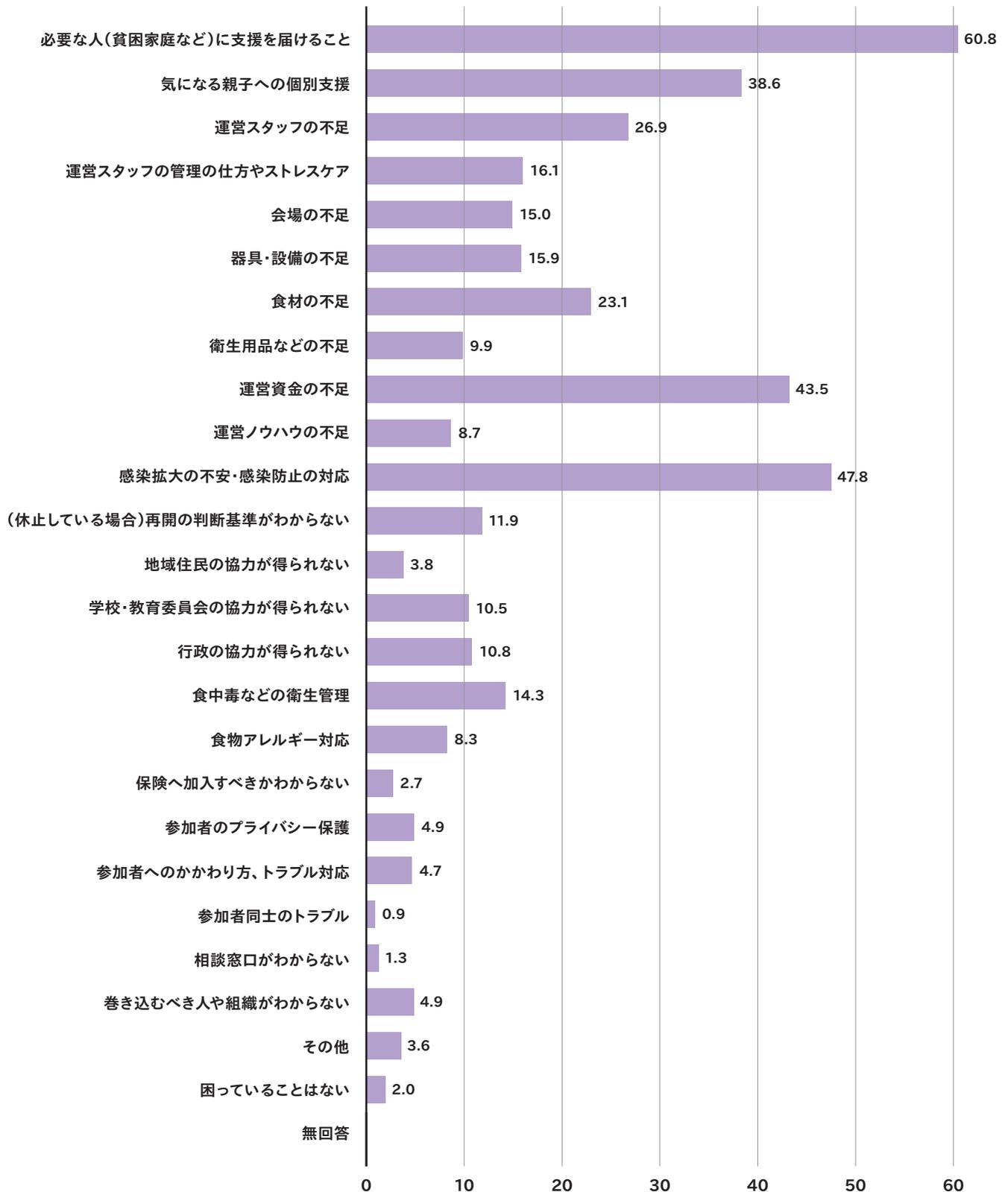


・その他:アナログのコミュニケーション、利用するこどもが減った、補助金のカット、責任の重さ、ボランティア保険 など

■第6回アンケート 2022年6月現在 回答数:623件(複数回答)

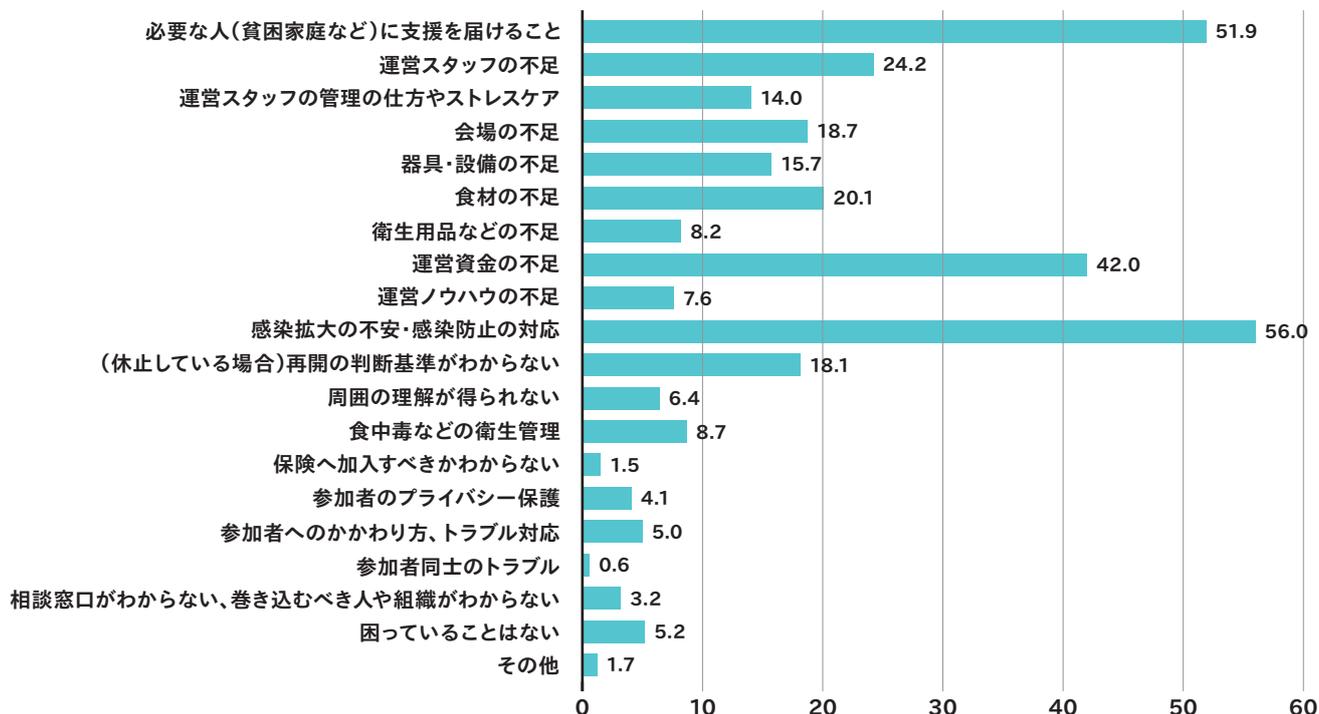


■第5回アンケート 2021年6-7月現在 回答数:446件 (複数回答)

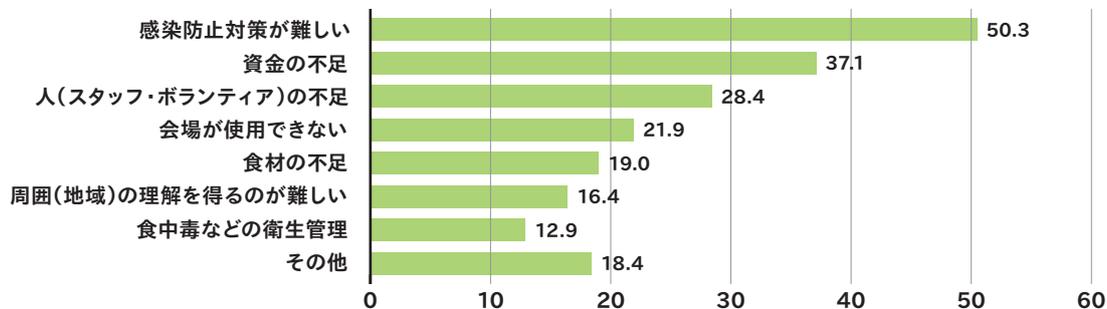


5 -1 こども食堂での困りごと（※複数回答）

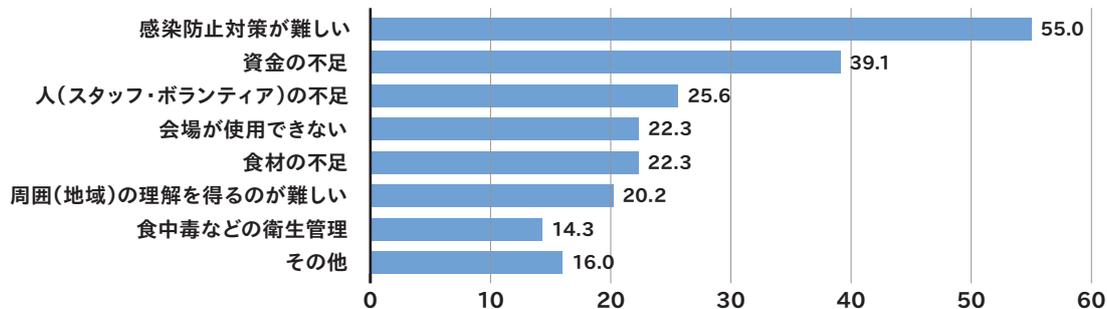
■第4回アンケート2021年 2月現在 回答数：343件（複数回答）



■第3回アンケート結果2020年 9月現在 342件（複数回答）

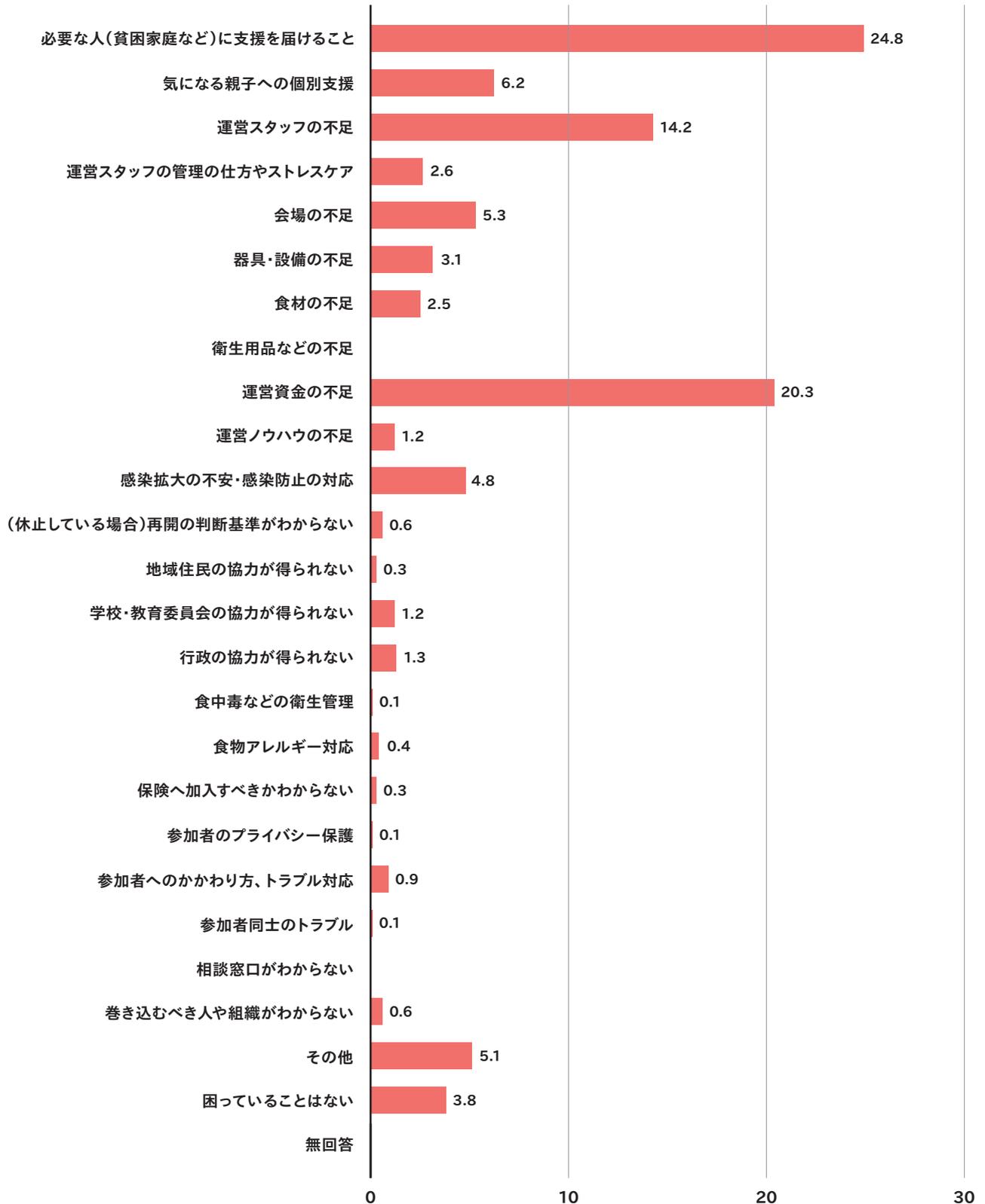


■第2回アンケート結果 2020年6月現在、238件（複数回答）



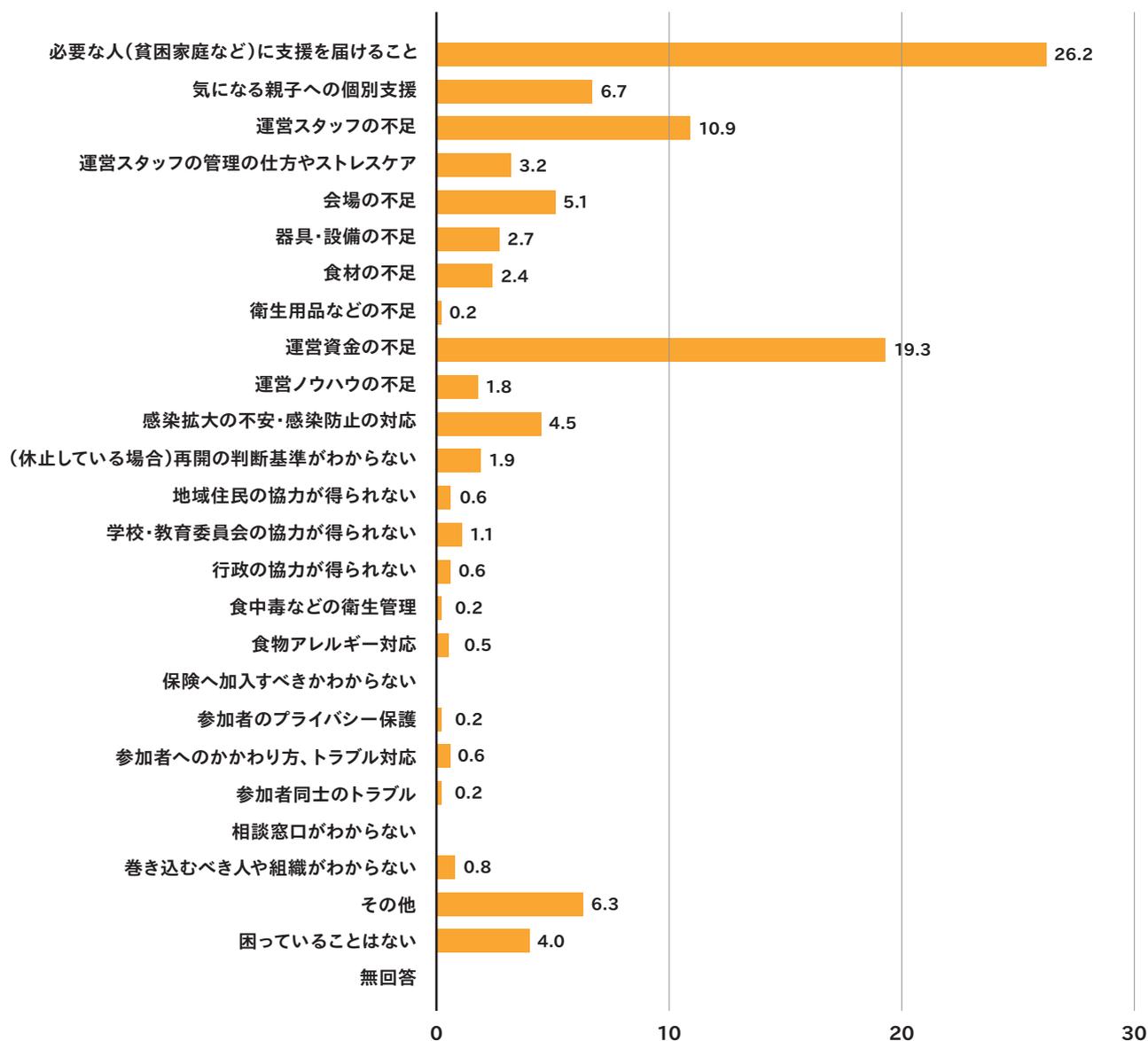
5 -2 こども食堂での困りごと(最も)

回答数:681件 単位:%



5 -2 こども食堂での困りごと(最も)

■第6回アンケート 2022年6月現在 回答数:623件



アンケートからわかること

・必要な人(貧困家庭など)に支援を届けることに困りごとを感じているこども食堂が59.0%と前回の58.3%とほぼ同水準で最多となった。次点は運営資金の不足の45.4%で前回の46.9%とほぼ同水準であった。

・最も困っていることの聴取においては、必要な人(貧困家庭など)に支援を届けることが最も多く、24.8%(前回値26.2%)。次いで運営資金の不足20.3%(前回値19.3%)、運営スタッフの不足14.2%(前回値10.9%)という結果となった。順位は前回と同様の結果で割合についてもほぼ同水準の結果となった。

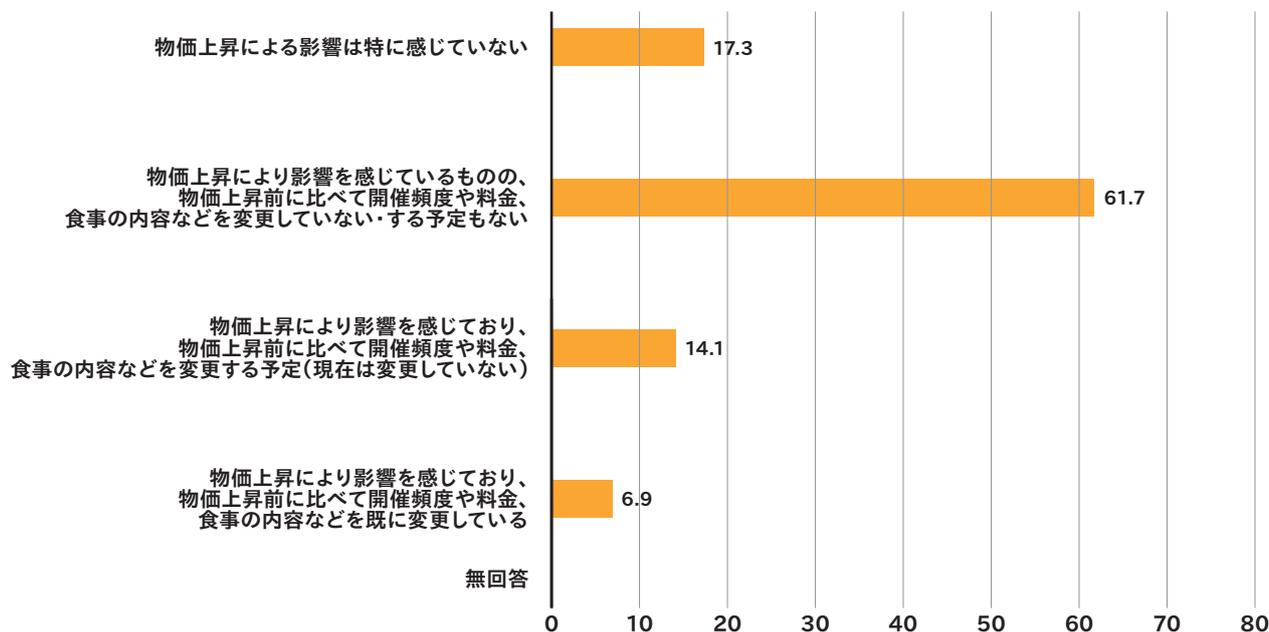
第2部

.....

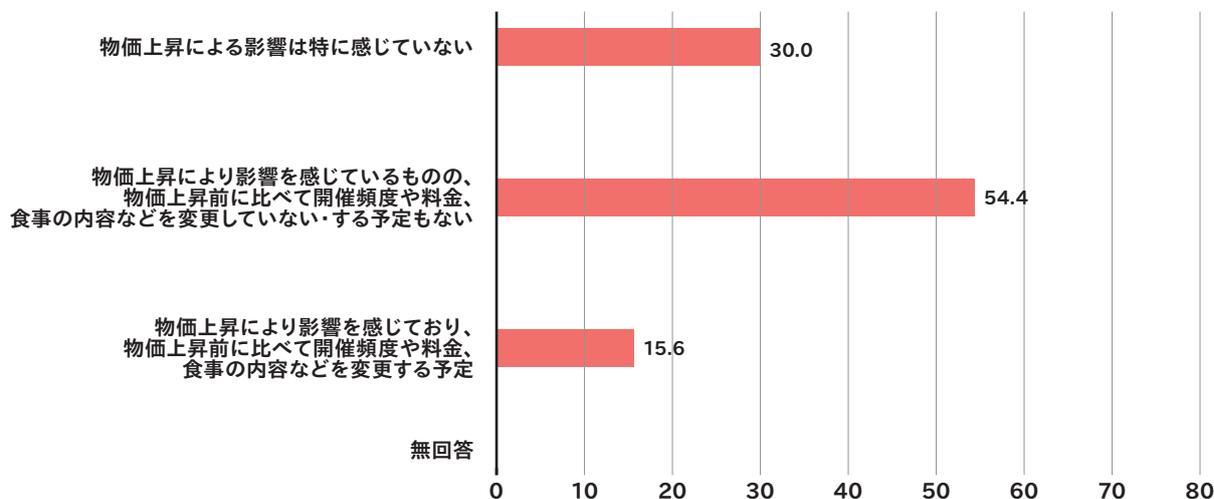
物価上昇による こども食堂への影響

6 -1 こども食堂や食材配布を開催するにあたり、 昨今の物価上昇の影響

回答数：681件 単位：%



■ 第6回アンケート 2022年6月現在 回答数：623件



アンケートからわかること

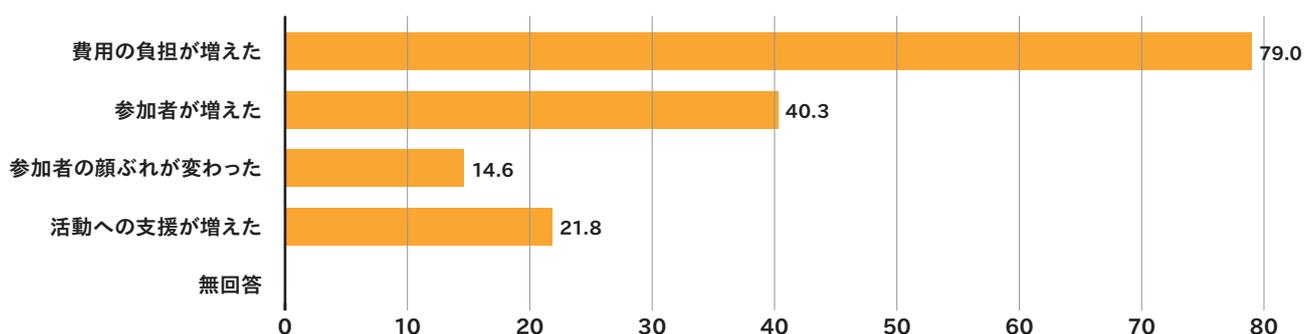
・物価上昇による影響を感じているが82.7%と前回の70%より10ポイント以上上昇、その内、物価上昇によってこども食堂を開催するにあたり何等かの変更をしているのが6.9%・する予定と回答してるのが14.1%で合わせると21.0%と前回の15.6%より上昇する結果となった。

6 -2 物価上昇による困りごとエピソード

- 食中毒を考えると、やはり揚げ物は欠かせないのですが、油の値段がかなり上がったので少し躊躇してしまいます。(沖縄県)
- 肉をミンチ類にして対応したりミニトマトを半分以下にして使うことがある。(島根県)
- 少しでも安く売っているスーパーを探して購入しています。(福岡県)
- ガソリン代が高くなりました。(茨城県)
- 金銭を介する活動スタイルでは元々ないため、あまり変化はない。いただいた助成金などの範囲で、購入できるものは減っており、野菜などは、品物自体が高価になり、購入する機会は減っている。山地が近隣なので、それでも安い野菜を手に入れながら活動できている。資材代が高騰し、農家さんはとても大変そうで、このままだと野菜を作る人がいなくなる、という直接的な危機感はある。学生たちなどからは、久しぶりに野菜を手にした、というコメントもあり、生活はとても大変そうで、学生たちへの支援を拡大したいが、子どもではない扱いとなることが多く、配布しにくい食品が多くて困っている。(福岡県)
- 冷暖房費の節約(福島県)
- 冷味料やお弁当箱等を買いつつ度々物価上昇を感じます。(香川県)
- 果物が出せないことがあった。お米のランクを落としている。(山形県)
- 現在はお弁当のため容器代の負担が増えた。(北海道)
- 肉は高いのでメインを野菜たっぷりにし、とり挽き肉を使うなど、考えている(千葉県)
- 子どもたちに配布するおやつが少なくなった。(愛知県)
- 不足のときは、くじ引き、ジャンケンなどで渡します。(愛知県)
- 生野菜の量を減らす。ミニトマトを半部等 お魚な料理を減らす。(宮城県)
- カレー粉や玉ねぎや野菜等の食料が高いため、スーパーをはしごしている。(茨城県)
- 在る食材で献立を完成させ、作るよう工夫している。カレーライスをジャガイモではなく頂いたカボチャやサツマイモで作るなど。(鳥取県)
- 青もの野菜を検討する時に、なるべく安いものを使えるように検討することが多くなった。「例/本当はブロッコリー(300円)を使いたいがピーマン(100円)で〜」等(福岡県)
- 色どりに付けくわえていたシソやパプリカなどを買い控えるようになった。(鳥取県)
- 子どもが食べたいメニューよりも、こちらが無理なく提供できるメニューに変更をするようになった。(愛知県)
- お弁当のお米を200gから190gにしました。(京都府)
- 牛肉を豚肉や鶏肉に変えたりしています(和歌山県)
- 油が高いので揚げ物は控えるようになった(群馬県)
- 鶏肉を良く使うが、2キロ600円代だったものが1100円を超え、お弁当時には16キロ以上使うため鶏肉だけで4000円以上の値上がりとなった。当食堂は開設以来、必ず肉を1品以上入れてきたため、これの見直しや、お菓子やプリンをやめるか等の話も出たが、こういう時だからこそ子ども達の楽しみを減らしたくないの思いから、質や量を落とすことのないよう歯を食いしばって頑張っている。(栃木県)

7 -1 物価上昇による変化

回答数:563件 単位:%



7 -2 1回開催当たりの増額影響

回答数:382件

a) 1回開催あたりの増額影響

○中央値:3,000円

b) 1回開催あたり1人分の増額影響

○中央値:66.7円

7 -3 1回開催当たりの参加者増加数

回答数:205件

○中央値:20.0人

(注記) 回答データの中には一見すると外れ値のようなデータも含まれていた為、平均値ではなく中央値を採用。

7 -4 参加者の顔ぶれの変化

回答数:81件

- 一見困り事が無さそうな家庭の方も来る。多くの人が生活苦を感じているのだと実感する。(愛知県)
- 新たな顔ぶれには、多子世帯やひとり親世帯の割合が多くなった。(広島県)
- これまで学校区内の子どもさんが多かったが、校区外からをこられるようになった(佐賀県)
- 以前は、シングル家庭や食に困難な方が目立っておりましたが、最近は子どもを楽しませたいと思っているご家庭やイベントの一つとして参加されている方も増えているように思えます。(北海道)
- ひとり親世帯、市役所、社協からの紹介が増えた。(鳥取県)
- 小学生以上高校生まで子ども同士で来ることや高齢者だけとかが主であったが、保育園こども園など働く親を持つ低年齢層の親子の参加が増えている。(香川県)
- ひとり親世帯、困窮世帯、遠方(近隣市町)からの利用者が増えた(愛知県) など

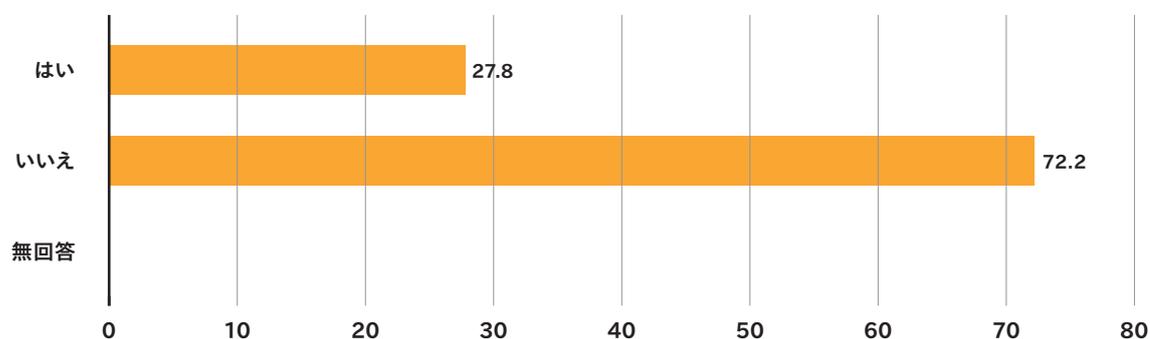
アンケートからわかること

・物価上昇による変化として、79.0%が費用の負担が増えたと回答。次いで多かったのが、参加者が増えた40.3%という結果となった。

・費用の負担については、1回開催あたりの増額影響はプラス3,000円(中央値)という結果であった。1回開催あたりの参加者増加数はプラス20.0人(中央値)、参加者の顔ぶれの変化もみられ、運営者の負担が増えている。

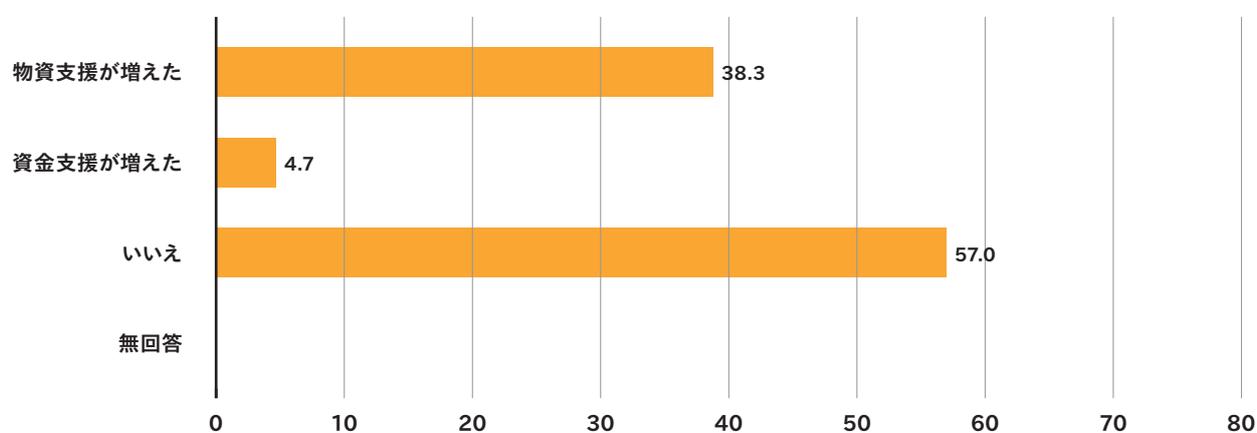
8 -1 物価上昇に対する 行政からの緊急支援策があったか

回答数:681件 単位:%



8 -2 物価上昇に対する 民間からの緊急支援策があったか

回答数:681件 単位:%



アンケートからわかること

・物価上昇による行政からの緊急支援策ありが27.8%、民間からの緊急支援策に関して物資支援が増えたが38.3%、資金支援が増えたが4.7%と合わせると43.0%で行政からの緊急支援を上回る結果となった。

第3部

.....

活動に関する困りごと (自由筆記)

9 困りごとの具体例（自由筆記）

その1 感染対策

- スタッフは全員仲は良いが、コロナ感染抑止に対して参加している子どもたちへの接し方や運営の仕方に考え方の違いがあり、コロナ禍の今だからこそ、子ども食堂のときにはみんなでふれあいを感じたり安全には気をつけながらも制限はあまりしないように運営したい、という立場のスタッフと、もし感染を拡大させてしまえば双方が困る、ということから人数の制限や、自由に交流する時間はやめなければならない、という立場のスタッフがいる。それぞれ言い分はわかるが、運営の仕方が反対になるので、いい塩梅のところまで運営していくのが難しい（徳島県）
- マスク着用、入り口での検温、手指消毒を徹底しても、会食となればマスクを外すので、どんなに対策をとってもマスクを外せば意味が無いので、会食したいが感染対策をとることが不可能。（山形県）
- 会場を企業様のご厚意で安い会場費でお借りしているが、コロナ感染が高止まりになると、会場使用を断られたり、利用に制限がかかってしまうなど、思うような活動ができない状態が続いているため苦慮している。（山形県）
- 再開の基準が明確でないし、どこを参考にすればよいかも難しい。（東京都）
- 自治体の公共施設を利用しているので、感染再拡大して休止せざるを得ない状況になるか不安。（東京都）
- 食堂で感染拡大したとなったら、信用問題なので、今後開催不可能となってしまえば大変だと常にヒヤヒヤしています。（奈良県）

その2 学校、行政、地域組織との連携等

- ネグレクト、ヤングケアラー等で引きこもりの親子に対してどのように関わりを持っていったら良いか、いつも悩んでいます。（愛知県）
- もう少し地域の方に認知され、協力が得られたらと思っています。（愛知県）
- 地域共生社会の実現を目的として実施していますが、障がい者等、中々地域に入れ無い方への対応が難しいと感じている。民生委員会等へも協力を呼びかけている。（北海道）
- 必要としているご家庭と繋がっているが、行政に繋げるなど次のステップにならない（愛知県）
- 本当に必要としている家庭への支援がなかなか出来ない。行政は把握されてるが、プライバシーの保護の観点からもなかなか私たちが関わっていくことが難しい状況。もっと行政と密になって支援策を考えたい。（奈良県）

9 困りごとの具体例 (自由筆記)

- 利用してくださる方は、だんだんと増えてきましたが、まだまだ地域には支援を必要としている家庭があると思います。そういった家庭に何とか支援の手を届けたいと思いますが、効果的な方法が分かりません、今は、周知が広がるように活動をコツコツと続けているところです。(静岡県)
- すべての子どもたちに支援を行いたい気持ちはあるが、その中でもひとり親世帯や経済的に困っている家庭への支援を充実させたい。そういったご家庭とどうつながることが課題です。社会福祉協議会や学校へ相談したが、個人情報漏洩になってしまうようで、相談場所がわからない。(埼玉県)
- 参加者に対し個別対応が必要なことが増えたが、地域資源につながった方がいいと感じる場合にも個人情報をどの程度伝えていいのかわかる。(東京都)
- 生活保護を受けているとか、その家庭の経済状況などを知ることは難しいため、本当に経済的に苦しくて利用したいという人がどれだけいるのかわからない。公的な援助を受けるにあたって、そういう部分に疑問を持つ意見もあり、どうしていくべきかわかっている。現状は、どなたでもOKにして行おうかなと思う。(島根県)

その3 ボランティア、スタッフの確保など

- 「運営スタッフの不足」当日のスタッフは十分足りていますが、裏方のスタッフが足りません。(渉外、経理、運搬、補佐など)(愛知県)
- 7年継続しているので、スタッフの高齢化により人材の確保(福岡県)
- スタッフ10名で運営していますが、高齢者が中心です。若い世代のスタッフへバトンを渡したいと思うのですが、そのスタッフがなかなか見つかりません。(愛知県)
- ボランティアと代表の、コロナ禍に対する考え方の相違などで意見が合わなかったりする為のストレス(愛知県)
- やるのは人です。やることは多いが、任せすぎると辞めます。中核、予備ボランティアを確保したい。これがいま出来ていないので代表の私が食事を作る以外すべてこなしているの、しんどい。(島根県)
- 運営スタッフは友人を頼っているので、女性のみ。男性の力も借りたい。中学生にもたまに手伝っては貰っていたのでとても助かった。(中学生ボランティア部活)(福岡県)
- 調理をしてくれるスタッフはいるが事務仕事をしてくれるスタッフがいな。 (広報・SNSとか補助金の申請 各所への連絡、買い出し、メニュー決め など)(埼玉県)

9 困りごとの具体例 (自由筆記)

その4 会場の不足

- 『開催場所の確保』これにつきます。ある程度広く、みんなが来やすくて、エアコンがあって、トイレがあって、車が止められて、さらに安くて。なかなか無いのが現状です。(京都府)
- 小さなお台所なので、できることが限られている。場所を借りることも考えているが、援助金の維持が難しい。(京都府)
- 人数が増えて会場(場所)が狭くなりつつある。(鹿児島県)
- 現在借りている会場の会食形式の人数制限がなかなか解除されない。他の会場を借りるには費用がかかってしまう。(東京都)
- 公共施設を使用しているために空き室がない。調理室の冷蔵庫などの容量が小さい。器具や機材が壊れたまま修理がされない。(山口県)

その5 資金等の不足

- 2022年9月から始めたばかりなので地域の人との関係性ができておらず、食材の定期的な確保が難しい。理想は野菜、米など寄付で賄い、足りないものを購入するという形をとりたい。(千葉県)
- 今年度は助成金をいただき運営しています。次年度にいただけるかどうか分からないので、資金面については重要な課題だと思っています。(徳島県)
- 子ども食堂を運営して1年ほどです。ご活用される方が増え、お弁当を作るにしても、手持ちの炊飯器などの機器では対応しきれなくなっています。今後ご活用される方が増えていくことが見込まれ、業務用の炊飯器の購入をしたいところですが資金に余裕がなく悩ましいです。(長野県)
- 今年度は助成金をいただき運営しています。次年度にいただけるかどうか分からないので、資金面については重要な課題だと思っています。(徳島県)
- 日頃から会場の光熱費などは持ち出ししている。寄付金があった時に少し大きなイベントを計画する。安定した資金繰りがあると安心できる。(愛知県)
- 野菜を中心に食材をいただけることが多くなってきましたが、肉類を中心に購入する必要があります。また、食材の保存に冷凍庫の必要性を強く感じています。こうした課題を解決するには資金が必要です。(埼玉県)

9 困りごとの具体例（自由筆記）

- お弁当代、レクレーション代（おもちゃ、文具など）、謝金（いもほりでの農家さんへの謝礼など）現在は赤い羽根の助成金などの申請や寄付金を充てているがあくまで単年度の自転車操業。いつ途絶えるかと思うと不安で眠れない（群馬県）
- モノの値段がすべて上がり、寄付や助成金のあてもなく支援すべきものが持ち出しになれば子ども食堂など活動自体続けていけなくなります。（福島県）
- 一番大きいのは、資金。不足というほどではないですが、今迄もこれからもずっと「無料」で続けたい為、値上がりが響きます。賛助金等のご支援をもっと頂戴出来るような努力と、常に何かの助成金で繋いで行けるように、実績を固めて行きたいと思っています。（埼玉県）
- 地域の子どもたちのためならと多少の出費は覚悟して始めましたが、予想より参加者が増え、その分弁当箱や食材、保険料、諸物品代が物価高もあり、徐々に負担となってきました。かといって、現在無料の子ども弁当はこのまま維持したいと思っており、また、もっと美味しそうな食事を提供したい、楽しいイベントも実施したいと思っており、大変悩むところです。（奈良県）

その6 活動内容、活動ノウハウ、その他

- 会食と弁当配布とでは利用者層が異なる。会食を再開できるようになった時に、会食だけにすると現在のお弁当利用者のニーズに応えられない。ただ両方に応えとなると現場の負担が大きい。良い方法がないか検討中。（東京都）
- 困り事を抱えている方へのアプローチが不足している。現在は公民館を借りて開催しているか、常設型の居場所づくりの必要性を強く感じている。（鳥取県）
- 利用者がどんどん増えているため、全ての希望者にフードパントリーなどを配布するとなると内容がどんどん薄くなってしまいます。そのため人数制限すると本当に必要とされる方に行き渡らない可能性もでてくる。（岩手県）



こども食堂の現状 & 困りごとアンケート

vol.7

結果報告

本アンケートは、ご寄付により実施をしております。

ご支援に感謝申し上げます。

むすびえでは、本アンケート結果を元に、
こども食堂支援企画を立ち上げて参ります。

引き続き、こども食堂へのご理解、
ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。
